

# 「慢性腎臓病」をご存知ですか？



診療部長  
泌尿器科部長  
平田 裕二

山香病院だより vol.60

皆さんは、黄色く透明な尿が、赤い血液から生成されたものと考えたことがあるでしょうか？今月は、腎臓に関するお話をします。

腎臓は、握りこぶしくらいの大きさで、背部に2個あり、血液中の不要な物質である尿毒素と過剰な水分からなる尿をつくり出します。正常な腎臓は細い動脈が毛糸玉のように集まった構造をしており、1日に浴槽1杯(120リットル)程度の血液をろ過して、約1.5リットルの尿を生成しています。腎臓の働きは、1日に腎臓がろ過する血液の量で決まります。

腎臓の細い血管が閉塞してしまうと、ろ過する血液量が減少し、十分に老廃物が除去できなくなってきました。

糖尿病、高血圧、喫煙、肥満、

脂質異常は、腎臓の細い血管を閉塞させてしまう代表的な疾患です。生涯において腎臓の機能が10%以下になってしまった場合は、生命を維持するために透析療法や腎移植などの腎代替治療が必要になります。

自分には関係ない話と思われるかもしれませんが、日本において透析療法を必要とする患者さんは増加の一途をたどっており、県内においても2007年12月時点のデータでは、大分県の人口約120万人に対して3527人、つまり人口342人に1人の割合で透析療法を受けており、その主な原因疾患は糖尿病、慢性糸球体腎炎、高血圧です。

以前は、腎機能が低下した状態を慢性腎不全と呼んでいましたが、最近ではたん白尿

が持続する場合や腎機能が低下した場合を慢性腎臓病と呼び、腎機能の低下に応じて病期を5つに分類しています。

残念ながら、低下した腎臓の機能を回復できる治療はありません。慢性腎臓病を早期に発見し、合併症の評価を行い、早期に治療介入することにより、生涯において透析治療を回避できるように取り組むことが大切です。

高血圧や糖尿病の治療を途中で中断している人はいませんか？「メタボなんてどうでもいいや！」と考えていませんか？高血圧、糖尿病の治療をしっかりおこない、減塩、肥満対策、禁煙を早速おこないまししょう。

努力したにもかかわらず、慢性腎臓病が進行して腎代替治療が必要になってしまった場合は、「人生が終わった!」と悲嘆する必要はありません。日本では世界一といわれる透析医療を受けることができます。腎代替治療には、腹膜透析、血液透析、腎移植の3つがあります。それぞれの治療には長所と短所があり、それぞれの治療の特徴を十分に理解して治療法を選択してください。あきらめずに、みんなで取り組んでいきましょう。